

2016年5月31日

IoT とナポレオン

群馬大学 小林春夫

IoT, またバズワードかと思う。

バズワード (英: buzzword) とは、定義が曖昧でありながら、権威付けする専門用語や 人目を引くキャッチフレーズとして、特定の時代や分野の人々の間で通用する言葉のことである。コンピュータの分野で良く使われるが、政治など広い分野で使われる。

バズワードとされてきた言葉には、Web2.0、クラウドコンピューティング、ユビキタス、マルチメディア、ビッグデータといったものがある。バズワードの使われ方は流動的で、当初は受け手に解釈が委ねられていたバズワードに 定義が与えられてゆくこともある。 (Wikipedia より)

が、講演を聴き、関連書を読み少し考察してみる。

IoT は Internet of Things モノのインターネット

IoE は Internet of Everything

すべてインターネットにつながるということかと理解する。

IoT は自律分散システムを有機的に結合し情報・システムの塊をつくる。マクロにみれば新しい価値を生み出す可能性が高いのではないかと期待できる。このことからいくつかのことが想起される。

● ドラッカー

映画を細切れに見ても感動は得られない。

時間の塊をつくり、映画をまとめてみる。

仕事も時間の塊を作り集中して行くと成果があがる。

● ナポレオン

局所優勢主義による各個撃破作戦

敵を分断、味方を集中、各個撃破。

小軍で大軍を相手に快勝、が「余は常に大軍で小軍を破る」と語る。

兵力を集中する、兵力の塊を作る。

(これと反対が、「戦力の逐次投入」)

● 電気製品はコモディティ化しており、差別化が難しくなったとの認識が
広まっている

コモディティ（英：commodity）化：

市場に流通している商品がメーカーごとの個性を失い、消費者にとっては
どこのメーカーの品を購入しても大差ない状態のこと。

● が、IoT は孫子の正法と奇法の状況を作り出すのではないか。

およそ戦いというものは、正攻法ではじめ、型破りな奇法で最終的な
勝利をおさめる。うまく奇法を繰り出せるものは、天と地のように
極まりなく、黄河や長江の水のように尽きることがない。

終わってはまた始まることは、太陽と月のようで、死んでまた生まれ
変わるの四季の移り変わりのようだ。音階は五種類に過ぎないが、
その五音階の交じり合った変化は、とても聴き尽くせない。色は五色に
過ぎないが、その五色が交じり合って生じる変化はとても見尽くせない。
味も五種類だが、それが交じり合った変化は、とても味わい尽くせない。

同じように戦闘の勢いというものも、正法と奇法の組み合わせに
過ぎないのだが、その組み合わせによる変化はとても極め尽くせない。

正法と奇法がぐるぐる回ってお互いに生じあうことは、
まるで丸い輪に端がないようなものだ。誰がこれを極められようか。

http://sonshi.roudokus.com/sonshi05_02.html

IoT を調べながら、新しい時代が到来しつつあるのではないかと感じている。